

2014年 CSA ワーキング・スタディ・ツアー  
参加者アンケート

# 2014年CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

鈴木 啓子(UAゼンセン・ダイソー労働組合)

## 1. 参加して感じたことは何ですか

### 1) 良かったこと

・中古衣類がラオスやタイの人々に届くまでにどのような過程を経るのかがわかったこと。実際に役に立っていることが確認できたことで安心もした。  
ラオスでは子どもたちや高校生と交流できて、その温かさに触れられたこと。

### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・ラオスの人々の温かさ！サンティパーブ高校寮でバーシーと呼ばれる儀式では、心から祈りながら紐を結んでくれる人が多くて、言葉は分からないけど気持ちがすごく伝わってきた。それにとっても感動したし、女学生の人懐っこい笑顔と夢を語る姿が忘れられない。

### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・学校建設や中古衣類支援に対してとても感謝されていることがわかった。特に、サンティパーブ高校寮は優秀なのに貧しくて学校へ行けない子のためにとっても重要な施設だということを実感したし、それを支えているのがCSAの活動だということもわかった。

### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

・毎日がとても充実していた！！行く前はハードだと思っていたが、あっという間に過ぎてしまった。日本大使館や各省庁訪問など普通だったら出来ないし、話を聞くこともすることも無いのにたくさん訪問できて良かった。ただ、子どもたちとの交流ができたのが1校だけだったのが残念。事前の情報収集は大事だと思った。

## 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

### 1) スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・特にラオスでは教育環境がまだまだ整っていない中で、CSAの活動は子どもたちの未来のためにも必要不可欠なものだと感じた。また中古衣類だけじゃない活動を知れて良かったし、日本のみんなにもっと知ってもらって、ますますCSAの活動が盛んになればいいと思う。

### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・学校の建設も大事だけど、その後のメンテナンスも同じように大切。老朽化した学校や教材の不足など子どもたちのために何が 필요한のかを考えさせられたので、今後も教育の環境を整えることに力を注いで欲しい。親への啓蒙活動もできたら、中・高への進学率も増えるのでは。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・アピールすること。いろんな人に知ってもらうことでより活動の幅を広げられると思う。実際に私は中古衣類カンパしか知らなかった！あとは、私たちのような参加者が組合員の理解を得られるよう教宣することも必要。参加単組も幅広く募ればその分、輪も広がっていく。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・ぜひ続けて欲しい！！実際に自分の目で見て体感することは大切。もっといろんな人が参加して実態を知ってもらいたい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・出会うことがほとんど無い組合の方がほとんどだったので、一緒に参加できてよかった。それぞれの単組での取組みを聞いたり教えてもらったりと勉強になることもたくさんあった。1週間、このメンバーで過ごせたことは一生の思い出だし、これからも大事にしたい仲間となった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・みんなで励ましあったり褒めあったり、うまく運営できていたと思う。また、役割があることで緊張感を持って参加できる所もいい。

## 藤 沼 伸 一(UAゼンセン・アルペン労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・未踏の地に足を踏み入れラオスの文化に触れられたこと。
- ・8人という少数単位でのツアーであったため、一体感が持てた。参加者それぞれが問題意識を持ちツアーに臨んでいた。
- ・色々なことを体感し、価値観が変わった(良い意味で)。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ラオスの一部しか見ていないが、ラオスという国(国民)はお金は持って無いかもしれないが、「貧乏」とか「貧困」とかという言葉は当てはまらないのではないかと感じた。精神的に非常に豊かで、日本人が忘れてしまったものを持っている国民性を感じた。
- ・小学生、高校生、大学生(一部卒業生)と交流の時間を持てたが(恵まれた部類に入る人々だとは思うが)素朴で向上心が高く非常に好感が持てた。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・タイ・ラオスの各行政機関からの期待感は大いと感じた。
- ・タイ・ラオスの日本大使館で参事官の個人的感想も聞けたが、色々な意見をお持ちで大変参考になった。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- ・タイムマネジメントが出来ていない面があった。
- ・訪問先については特に問題は無いと思うが、それぞれの訪問先での目的を完遂できたかどうかは疑問が残った。(時間不足と段取り不足)
- ・一部ではあったが、現地の実情を把握されていないのは問題。(トナミ村小学校では試験休みで子どもたちがいなかった。)
- ・卒業生との懇親の日程タイミングは非常に良かった。後日高校生に「ガンバレば夢は叶う」と言えるネタができた。
- ・サンティパーブ高校では時間不足で、問題と思われる施設(改善必要箇所等)の見学ができなかった。また、寮生との交流は図れたが、直接彼らの声(思い)を聞く時間が無かった。
- ・ノンカイでの引き渡し式は「式典規模や内容」が現地に行って初めてわかるという状況。イメージは掴めたが、どの様な方々が参加されていたのかもいまひとつ不明。
- ・タイの衣類保管倉庫はシステム等「キッチリ」しているのは説明を受け分かったが、先に訪問したラオスの衣類保管倉庫の運用状況は後で考えると今一つわからない。

## 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

### 1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・小学校建設は、ラオスという国の発展には欠かせない支援だと思う。
- ・高校の寮支援についても同様。ラオスに貢献する人材を育てる良い事業だと思う。
- ・中古衣類の支援については、本当に必要である人々の手に渡っているのであれば、意義のある支援だと思う。
- ・自分達の行っている支援についての視察を、毎年きちんと実施しているという活動は絶対に必要な活動だと思う。

### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・新しい小学校を作ることは必要だとは思うが、建設した学校のメンテナンス(維持管理)をどのようにしていくか、現地の方々(NGO、行政、先生、住民・・・)としっかり話し合い、建設と同じレベルで注力した方が良かったと思う。寮についても維持管理を徹底すべきだと思う。反面、国民性としては「維持管理」が苦手なのか・・・とも感じた。(雨季と乾季があることによる国民性)
- ・中古衣類については、支援する側と支援される側(最終的に受け取る人々)のニーズが一致しているかの確認は必要だと思った。現地ではぬいぐるみやタオルなど「衣類ではない物」も支援物資として欲しいという声があった。色々難しい面はあると思うが、検討の余地はあると感じた。

### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・百聞は一見に如かず。各産別毎でのツアーの開催は出来ないものか。
- ・上手く活動が出来ている労組の好事例を、水平展開できるような情報発信(CSAからの)が必要だと思う。
- ・中古衣類支援については、基本的には「衣類+輸送費でワンセット」というお願いのアナウンス強化が必要かと思う。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- 続けた方がよいと思います。
- 前年の日程表も見ましたが、ほとんど変わりのない日程で、変化も必要かと思う。そのためには参加メンバーによる「帰国後の後日反省会」などもワーキング・スタディ・ツアーの活動の一環として組み込めたらと思う。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- 今回は基幹労連とUAゼンセンの2組織で、人員も3人对4人であったため、バランスが良く、基幹労連の方々と私の物事を見る目（視点）が違ふと感じ、色々な面で参考になった。8日間ではあるが「同じ釜の飯を食った仲間」とのご縁を、これからも続けていきたい。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- 山岡さんは事務局長として初めての引率であったため、メンバーが色々な面でフォローしており、結束力が高まったと思う。反面、事務局長としての役割りが今一つ判然としなかった（代表？事務局？・・・？）
- 意図したわけでは無いと思うが、それぞれの個性がバランスよく交わり、とても良いチームであった。
- 団長、記録、写真、と持ち回りで役割分担を持たせたことは良かったと思うが、団長が行く先々で変わるのはいくらかしかなかった（ワーキング・スタディ・ツアーの伝統かもしれませんが）。団長は団長としてしっかり固定したほうが良いと思った（事前に調整してそれなりの方が担う？それなりの方が参加する？また、挨拶は「挨拶係」を設けても良い）。
- CSAの組織と、スタディ・ツアーの参加者の説明をもっときちんとすべきだと感じた。CSAイコール参加者ではなく、CSAの支援者がスタディ・ツアーの参加者で、個々の労組から派遣されているのだという事を説明する必要があるのではないかと思う。（参加者紹介のペーパーを用意する等も一策かと）
- 出発前の事前説明の時間は1時間であったが、もう少し時間をかけて詳細の部分まで事前学習すれば、現地での理解度は断然上がると思う。（ガイドさん、現地スタッフ、ラオス・タイの関係者の立ち位置等々まで含めて＝フンペンさん、エーさん等の紹介）
- 折り紙ではなく「新聞紙で作ったカブト」が好評で良かった。
- 高校での交流会時、お礼の歌は事前に共有化（歌詞の把握）が必要。

## 壹 岐 健(UAゼンセン・イオンディライト労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- 自分の目で中古衣料がどのように輸送され、保管して、仕分けを行いそして困っている人達に渡る（それも自分の手で）事を確認できた事。

## 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ラオスやタイの国政状況が分かったこと。
- ・特にラオスは親日で非常によくしてもらいました。それは歴史にあり、日本人の心配りがラオスの人にも受け継がれている気がしました。

## 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・CSAが長く活動を行っているので政府や現地の人々からこの活動が必要とされていると感じましたし、CSAの活動が全般的に非常に高い評価を受けていると感じました。

## 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- ・全体的には問題なかったですが、3日目のトナミ村小学校でテスト休みになっていたので子どもたちと交流（綱引き等）が出来なかったのが残念でした。

## 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

### 1) スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・参加するまでCSAがどのような活動をしているのかあまり知りませんでした。CSA スタディ・ツアーに参加して様々な支援活動を行っているのを知りました。少しでもこのCSAの活動を広げていくのが私たちの使命だと感じました。

### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・学校建設や中古衣料を送る活動は引き続きしていく活動だと思います。ただ、建てるだけや送るだけではなくて学校の場合はメンテナンスが必要ですし、中古衣料は送る方法を含めて（送る時の仕分け）などを改善する必要があるのではないかと感じました。

### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・CSAワーキング・スタディ・ツアーに参加した参加者が単組に持ち帰り、情宣活動を通じて組合員に対して理解を深める必要があると思います。

## 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・やはりツアーは続けるべきです。ただ行くだけで視察するだけではなく、行くなら何か交流だけでなく、例えば、中古衣料を手渡すのではなく、コンテナから下ろして仕分けを手伝うとか、学校の建設を手伝うとか、補修をしに行くとか。少しでも一緒に活動出来ることがあればいいと思いました。

### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・今回はUAゼンセンの代表として参加しましたが、基幹労連の方々と交流が広がり一週間共に過ごしたことはいい経験でした。違う業種の集まりなので色々話を聞くことが出来たので私自身として、非常にいい経験をさせてもらいました。
- ・このメンバーとはまた永く付き合っていきたいです。

### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- 毎日の担当（团长・議事録・写真）をみんなで分担してやるなど、工夫されていたのでやりやすかったです。
- ルアンプラバンのサンティパーブ高校の交流会で高校のみんなは、ダンスなどでもてなしてくれましたが、こちら側としても何かしら打合せ等をして準備する方が良かったのかと感じました。

## 田 中 英 二(UAゼンセン・ソラストユニオン)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- 中古衣類のその後を自分の目で確認できたことです。自分たちの活動が役立っていると実感できて良かったです。
- また、文化も環境も違う現地の人々と交流して見識を拓けられたことや、産別や業種を超えた良き仲間に出会えたことが、自分にとって大きな財産となりました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ラオスの国情。空爆による不発弾の被害や教育、保健の問題はあるが、人々は明るく元気に暮らしており、精神的に豊かな印象を受けました。実際に、在ラオス日本大使館訪問時で、参事官より「土壌が豊かであるから食糧が安定し、精神的にも安定する」と伺い、納得。同氏のラオス好き（と思われる）発言は正に同意。行ってみてラオスが本当に好きになりました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- どこに行っても皆さんから温かい歓迎や感謝のことばを受け、CSAの活動が非常に高い評価を得ていることを感じました。長年にわたる活動が実を結んでいることを実感しました。
- 一方、中古衣類に対する提言も若干ありました。現地のニーズに合わせながら継続していくことが大切かと思えます。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- かなりタイトなスケジュールでしたが、内容が濃く充実していました。
- ただ、引き渡し式で村人を待たせてしまった事や、十分視察できない施設があったのは残念でした。一方、当初1校のみの小学校訪問が、2校訪問できたという良い変更もありましたが…。海外なので調整は難しいかと思えますが、今後の課題として挙げさせていただきます。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- 各方面で感謝されており、意義のある活動だと思えます。

2) CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- ・現地のニーズに合わせながら、活動を継続していくべきです。中古衣類募集については、今後、輸送費とセットにし、輸送費軽減分を小学校や高校生寮への支援に充てる必要があると感じました。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・情宣活動は大切ですが、今回特に感じたことは、自分の目でみる大切さでした。未参加組織へまずは参加するよう働きかけ、賛同者の輪を広げていく事が大切かと思えます。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・続けるべきです。参加して初めてわかることがたくさんあります。今まで未参加の組織にも是非参加してもらいたいです。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・今まで交流の無かった他組織の方と共に行動し、同じ釜の飯を食い、同じ課題を共有できたことは非常に有意義な事だと思います。組合活動についての情報交換もできて非常に為になりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・各自に担当を割り当てたことは良かったと思います。それぞれが責任感と緊張感を持ってツアーに臨めました。

## 三 島 慎 太(基幹労連・三菱重工労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・CSAの主活動（救援衣類・小学校建設・高校寮運営）のすべての現地の様子を見ることができ、また、訪問先各地で大歓迎をして頂いたこと。
- ・小学生と短い時間ではあったが折り紙で交流できたこと、高校では寮生と何曲も踊ったこと、ノンカイの引き渡し式の人の多さなどなど…すべてが印象に残っている。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・訪問した2つの小学校が建設から15年ほどしか経っていないのに、屋根の破損などひどく傷んでいたこと。
- ・2つの小学校は、引き渡しから今回が初訪問であったり、約10年訪問していないなど、その実態もつかめていなかった。子どもたちはその環境下でも澄んだ笑顔で勉強をしていたが、作った学校に責任を持って維持してあげることも大切であり、新しい学校の建設のみならず、今後は修繕にも重きを置いていく必要性を強く感じた。



3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ラオスでもタイでも、政府・省庁のかなり上の立場の方に多くの場面で対応して頂き、CSAの長年の支援が強い信頼関係を築いているのを感じました。これはCSAの活動が続けてきた成果が現地から評価されているからこそその対応だと思います。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- ・移動や訪問先も多かったですが、日程は苦ではなく、毎日の訪問先や移動（車窓の風景）がとても新鮮なツアーでした。
- ・唯一残念だったのは、トナミ村小学校で子ども達に会えなかった（テスト明けのお休みだった）ことです。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・ラオスも一部では経済発展が進みつつあるが、地方は発展しておらず、我々の各活動が現地で喜ばれているのを肌で感じ、今後もこの活動を続けていく必要性を強く感じた。
- ・現地を見るまでは、中古衣類が喜ばれているのだろうか、と思うところもあったが、特に小学校訪問時に車窓から見た通過する農村の風景から、地方で生活している方には必要なものだと感じた。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・建設した小学校の維持活動を定期的に行っていかなければいけないと感じた。学校を建設し寄贈していくのも大切だが、15年ほどで雨漏りするようであれば、今までに建設してきた学校は今後立て続けに修繕時期を迎えることになる。
- ・我々が定期的に訪問するのは無理だが、教育省などの力を借りれば現地の方に現状の写真を送ってもらう程度は可能だと思う。大きく傷む前に把握し修理することで、教育の環境づくりを支援したいと思いました。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・組合員から見たとき、救援衣類を送る運動（国内指定倉庫への送付）だけがクローズアップされている感があり、小学校建設や、高校生寮の運営、コンテナ輸送費については詳しく知られていないのではないと思う。各単組の力を借りなければいけないが、活動内容についてもっと詳しく知ってもらうことが必要だと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・CSAの活動は、連合や各単組等の協力で成り立っていることもあり、よき理解者や、現地の実態を多くの人にPRする方を増やしていくためにも、今後も続けてもらいたいと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・単組・産別の枠を超えて交流する機会はそれほど多くない中、今回は約1週間同じ行動をし、異国の地を旅したことにより、かなり団結したメンバーだったと思う。

### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- ・少人数であったが、毎日各自が役割を担っていたこと、相互が協力しながら日々を過ごしていったことで、良いチームで毎日をご過ごせたと思います。特にルアンプラバンでの出来事は、メンバーの団結を確認できた、良い出来事だったと思います。

## 酒 向 真 澄(基幹労連・IHI労働組合連合会)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・自分達を送った衣類が現地で、自分の目で確認でき、現地でこの事業に携わっている人達の生の声が聴けて、子ども・学生たちの笑顔が見れた事。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・貧しく見える中でも、貧しさを感じさせない一生懸命なところ、そして子どもたちの笑顔。
- ・学校の老朽化・メンテナンス不足。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・どの訪問先でも、大人・子ども関係なく笑顔で出迎えをしていただき、この活動が感謝されていると実感した。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- ・訪問先は、どこもすばらしい歓迎をされよかったが、訪問先の時間配分を見直した方が良い。(学校など子どもたちと触れ合う時間が少ないと思う)
- ・訪問先の詳細なスケジュールの明確化が必要と思った。(流れで行った感があった。)
- ・トナミ村小学校で子どもたちと会えなかったのが心残り。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・各訪問先で感謝され、今までの活動は素晴らしい活動であると感じた。ただ、難しいことではあるが、考え方を改善する必要があるとそろそろ出てきたのかなとも感じた。

#### 2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・まずは継続。
- ・出来る事なら、衣類の日本での仕分け(冬物・夏物)、学校・寮のメンテナンス。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・出来るだけ多くの人にCSAの活動を知ってもらう活動が一番必要だと思う。この活動がいかに素晴らしいかは、見ればわかるので、ツアーに参加していない組合に声をかけ、理解をしてもらう。(ツアーがだめなら、CSAの活動報告を各地で行うとか)

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- 継続していただきたい。
- 何回も書きますが、自分で体験すればよくわかります。また、他労組の方たちとの交流は、組合活動にも活かすことが出来ることが多い。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- 毎年いいとは思いますが、今年のメンバーは特によかったです。各単組の話とか聞けていろいろと参考になりました。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- 皆が初めての事で不安な中、役割があるのでどうするかと相談が出来、より話しやすくなったので、より結束ができたと思います。

## 濱本 将 矢(基幹労連・JFEスチール福山労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- 自分たちの支援活動の足跡を目で見たことが、まずは一番良かったと感じます。
- ラオス・タイの情勢なども勉強でき、今後、活動するうえでの視野が広がりました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- CSA高校寮卒業生との交流で、みんな前向きな考えで頑張っていたことと、仕事でどんなに家を離れても、最終的には、故郷で暮らしたいと考える愛国心が印象に残った。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- どこにいても、心から歓迎され感謝を受けました。CSAの日々の活動が根付いている結果だと感じます。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- 訪問先は、どこも外せない場所だと感じます。
- 全体的にはハードなスケジュールですが、移動なども含め、仕方のないことだと判断します。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- タイ・ラオスの現状からすると、CSAの活動は大きな成果があると感じます。
- ラオスなどは、650万人程度の人口であることから、CSAの活動は、多くの方々への励ましに繋がっていると感じます。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- 小学校を訪問時、時間が経過した校舎は、雨漏れなど補修が必要になっています。
- 順次、補修を支援していますが、さらなるフォローは必要だと感じます。
- ラオスも今後、内陸国として運輸の拠点になり、外資系の企業が入り込むなかで、変化しやすい国だと感じました。発展途上国に見られる貧困の差を救うためにも、引き続き、多くの支援者を募り、時代にあった支援活動を展開していただきたいと思っています。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- 支援活動の実績を、DVDなど、多くの器材で紹介していく必要があると考えます。
- ツアーについても、多くの方々に現状を知っていただくために多くの組織が参加できる工夫が必要であると考えます。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- 1度の大きな支援よりも、小さな支援を続けることが一番重要であり、友好を深めるうえでも、引き続きの支援は必要であると考えます。
- 視察についても、引き続き実施してほしいと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- 他組織の取り組みなど、さまざまな情報交換ができました。
- また、各種取り組みについても、自組織との違いなど勉強になりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- 訪問毎に役割を設定する手法は、一体感を得るためにも効果的だったと感じます。
- また、当日の朝にミーティングを取り入れたことは、抜け防止にもなり効果的でした。



ソムサバット村小学校で



タート・ルアン(ヴィエンチャン)



パトゥーサイの前で(ヴィエンチャン)



ノンカイでの救援衣類引渡し式に集まった子どもたち



ラオス地雷博物館にて



高校生寮でのバザーセレモニー